

「財政健全化委員会」（委員長・農政ジャーナリストの会会長）は、２０１７年９月１３日の幹事会に以下の報告を提出した。幹事会はこれを了承し、速やかに実行に移すことを決めた。

#### ◎財政健全化委員会報告

【財政悪化の現状と要因】 予算規模に比して事業継続上無視できない赤字が続いており、早期に収支均衡を図る必要がある。赤字の主要因は、会員数の伸び悩み、会費未納会員の存在、研究会と農業ジャーナリスト賞の運営費の負担である。農政ジャーナリストの会は、半世紀以上にわたり、会員の情報交換とともに、農業・農政分野における公正な報道、評論活動を支え、発信する重要な役割を担ってきた。本会の活動が縮小均衡に陥らないためには、研究会や機関誌「日本農業の動き」の発刊を柱とする活動をより充実し、会員を増やすことが基本になる。冗費の削減を前提とした上で、具体策として以下を提言する。

#### 【会費納入の徹底】

- ・総会召集状で会費の納入を督促する。
- ・会費未納会員のリスト・アップを徹底する。
- ・１年未納者に対し機関誌送付の停止を予告、２年未納の場合は送付を打ち切る。

#### 【新規会員の増加】

- ・研究会の話題性を高め、海外を含めた共同取材を実施する。
- ・特別研究会を積極的に開く。
- ・新規の賛助会員を勧誘する。

#### 【その他収入の増加】

- ・新規会員の入会費（現行３０００円）を値上げ。
- ・機関誌「農業の動き」の販売を促進する。

#### 【歳出の削減】

- ・総会を簡素化。
- ・研究会の会場を見直す。
- ・農業ジャーナリスト賞の収支改善。
- ・農業ジャーナリスト賞選考委員など、本会幹事に対する手当を廃止。

#### 【検討を継続する課題】

- ・会費の値上げ（対策の効果を見極めて検討）。
- ・非会員の研究会参加費の値上げ。
- ・シンポジウムなど収益事業の開催。

（以上）